

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL0561-51-2878

道の発達は人類の発進とともにあると思われ、その古いけれど、も日本では中世、諸豪族が各地に割拠し、自領を守るために関を設け、他領の人々の通行をはげめた。このための旅行はほとんど自由に行き来することができた。

唯一の例外は宗教人の往来である。ことに修験者、つまり山伏は案外自由に修行し、各所で闊歩した。

熊野詣での庶民は着物の襟へ若干の金子を縫い込んでいた。熊野詣では山深くさびしい行であり、行き先はおれがあらうと

熊野速玉
 熊野路を歩く

蟻の熊野詣での信仰街道。



熊野速玉本殿

紀伊山地の霊場と参詣道
 うらやまをみるこ
 とで
 不立文字
 の意匠と
 ある。



▲熊野速玉大社入口前に立つ碑



那智熊籠野古道を歩く

修験の霊場
 熊野三山は山深
 く参詣者のもの
 が厳しい修行で
 あった。
 その途かな山り
 旅。

世界遺産である熊野速玉大社、熊野那智大社、熊野本宮を総称して熊野三山と呼ぶ。熊野速玉大社の摂社神食神社は、その御神体「ゴト」に、岩が神武東征の際に神武天皇が登った天磐盾とされ、その御祭神高倉下命は神武天皇上陸時にその手助けをしたとされている。また、神武天皇が導いたとされる八咫鳥は三社に、三社に



▲深専寺横立石道標(国造湯浅町)

